

主催者あいさつ



国や県、協定締結企業をはじめ関係者の皆さんからの力強いサポートをいただきながら、恵まれた通信環境を「まちづくり」や「人づくり」に活用し、県内の先行モデルとなるように取り組んでいきたい。

川根本町 鈴木 敏夫 町長

共催者あいさつ

情報技術の分野は進歩がとて早く、それにあわせて教育も変わっていく必要がある。今まさに変革しようとしているこの町を、これからはしっかりと応援していきたい。

総務省 東海総合通信局
炭田 寛祈 局長



**川根高校 × 「ZOHO University」
遠隔コミュニケーション**



「ZOHO University」のあるテンカシという町はどんな所なのか、学生に英語で聞いてみよう！

ZOHO University 講師
Praveen 先生

テンカシは…

「人口は2000人から3000人くらい」「とても大きな寺院がある宗教都市」「有名な滝がたくさんある」「今は雨がよく降る時期」「テンカシ出身で日本の映画にも出演したことのある俳優がいる」…etc…

常用語の「タミル語」も
教えてもらいました！



解説「『川根本町モデル』が目指すもの」

学習意欲を高め、思考の幅を広げ、多様な表現を生み出す効果的なツールとしてICTを積極的に活用し、子どもたちの主体的で深い学びを創り出したい。独自のアプリ開発や情報教育の展開など、さらに環境整備を進め、「アナログ+デジタル」の融合した授業により、子どもたちの「生きる力」の育成を目指したい。

町教育委員会 宮島 明利 管理主事



解説「プログラミング教育の目的とねらい」

小学校におけるプログラミング教育必修化の目的は、単にコーディング(プログラムの作成)を覚えることではなく、論理的思考を身につけ「主体的・対話的で深い学び」を実現することにある。授業のプロである教員は、「自分自身が学ばなかったプログラミングを教える」ことに臆する必要はなく、教材を活用しながら子どもたちと一緒に取り組んでいく姿勢が大切。

東京都小金井市立前原小学校
松田 孝 校長



プログラミング講座「EV3を操作してみよう！」

総務省「プログラミング教育事業推進会議」の松田孝委員を講師に、町内の小学生28人がプログラミングで動くロボット「EV3」を使ったゲームに挑戦。



**未来の学びフォーラム
in 川根本町**

11月11日、県立川根高校「セミナーハウス」にて「未来の学びフォーラムin川根本町」が開催され、町内外から約160人が来場しました。

当日は、平成29年9月から町内全小中学校で本格的に開始されたICT教育「川根本町モデル」の紹介や、川根高校の生徒と「ZOHO University」(インドにあるIT企業ZOHOの社内教育機関)の学生とのテレビ会議システムを使った英語交流、2年後に小学校で必修化される「プログラミング教育」の公開講座などが行われました。

【問】情報政策課・情報政策室 ☎(56)2232



①「ZOHO University」の学生との遠隔コミュニケーションでは、最初は戸惑いを見せた生徒たちも、次第に画面の向こう側の相手と打ち解けて楽しそうに交流した。②③「プログラミング講座」では、児童生徒が3～4人1組のチームに分かれて、机上に設置されたフィールド内でロボットが各エリアを通過して最終的にスタート地点に戻るルートの設定に取り組んだ。④「川根本町モデル」の紹介では、ICT機器を活用した授業の様子や教員・児童生徒のインタビューを撮影した動画を上映した。⑤松田氏による「プログラミング教育」の解説では、参加者が実際にタブレット端末を使用してプログラミング教材を体験した。